

第六十五回帝國議會 衆議院

昭和九年度一般會計歲出ノ財源ニ充ツル爲公債發行ニ關スル法律案外三件委員會議錄(速記)第八回

會議

昭和九年三月六日(火曜日)午前十時五十九分開議

出席委員左ノ如シ

委員長 竹内友治郎君

理事小笠原三九郎君 理事平野 光雄君

理事中 亥歳男君

増田 金作君 山口忠五郎君

佐藤 重遠君 福井 甚三君

沖島 録三君 増田 義一君

牧山 耕藏君 小川郷太郎君

池田 敬八君 田中 貢君

野中 徹也君

出席政府委員左ノ如シ

大藏參與官 上塚 司君

大藏省主税局長 中島 鐵平君

朝鮮總督府財務局長 林 繁藏君

本日ノ會議ニ上リタル議案左ノ如シ

大正九年法律第十二號中改正法律案(所得稅法ノ施行ニ關スル件)(政府提出)

昭和九年度一般會計歲出ノ財源ニ充ツル爲公債追加發行ニ關スル法律案(政府提出)

絲價安定融資擔保生絲買收法中改正法律案(政府提出)

日本銀行特別融通及損失補償法中改正法律案(政府提出)

○竹内委員長 ソレデハ開會致シマス、新ニ併託サレタ案ガ一件アリマスガ、大正九年法律第十二號中改正法律案、之ヲ議題トシテ政府ノ案ニ對スル説明ヲ伺ヒマス

○中島政府委員 本案ノ大體ノ要旨ニ付キマシテハ、本會議ニ於キマシテ大藏大臣カラ御説明致サレテ居リマスルガ、更ニ改メマシテ私カラ一應御説明申上ゲタイト存ジマス

大正九年法律第十二號ハ御承知ノ通り内地ノ所得稅ト外地即チ朝鮮、臺灣、樺太ナドノ所得稅トニ付キマシテ、外地ニ於キマシテ課稅致シマスル所得ニ付キマシテハ、内地ニ於テハ課稅セナイト云フヤウニ、所謂二重課稅ヲ避ケマスルト共ニ、内地ト是等ノ外地トノ間ニ於キマスル課稅上ノ連絡ヲ圖ルト云フ目的ヲ以テ制定セラレタ法律デアリマス、從ヒマシテ之ニ照應致シマシテ、内地ニ於テ課稅致シマス所得ニ付キマシテハ、外地デハ課稅セナイト云フコトヲ外地ノ各ソレノ法令中ニ規定致シマシテ、内外兩々相俟チマシテ、兩地間ノ課稅上ノ連絡ヲ執ッテ居ルノデアリマス、而シテ外地ニ於キマスル現在ノ所得稅制度ト致シマシテハ、内地ノ所得稅法自體ヲ施行致シマセヌデ、各地ソレノ特殊ノ諸事情ニ依リマシテ、各特別ノ法令ヲ以テ之ヲ定メテ

居ルノデアリマス、即チ臺灣及ビ樺太ノ所得稅ハ、法人ニ對シマスル第一種所得稅及ビ公債、社債、銀行預金ノ利子ニ對シマスル第二種ノ所得稅竝ニ個人ニ對シマスル第三種ノ所得稅カラ成立ッテ居リマス、大體ニ於キマシテ内地ノ所得稅ト同様デアリマスルガ、朝鮮及ビ關東州ニ於キマシテハ、法人ニ對スル課稅ノミヲ只今ノ所デハ存スルデアリマス、第二種所得稅及ビ第三種所得稅ハ之ヲ缺イテ居ルノデアリマス、然ル所今回朝鮮ニ於キマシテハ、現行ノ所得稅令ニ改正ヲ加ヘマシテ、從來ノ法人ニ對シマスル課稅ヲ第一種ノ所得稅ト致シマシテ、又新ニ公債、社債及ビ銀行預金ノ利子ナドニ對シマシテハ、第二種ノ所得稅ヲ課スルコト、致シ、更ニ個人ノ所得ニ對シマシテハ、第三種ノ所得稅ヲ課スルコトニ相成リマスルノデ、新ニ創設セラレマスル第二種

付託議案

(審査終了ノモノヲ除ク) 大正九年法律第十二號中改正法律案(所得稅法ノ施行ニ關スル件)(政府提出) 昭和九年度一般會計歲出ノ財源ニ充ツル爲公債追加發行ニ關スル法律案(政府提出) 絲價安定融資擔保生絲買收法中改正法律案(政府提出) 日本銀行特別融通及損失補償法中改正法律案(政府提出)

ノ所得稅及ビ第三種ノ所得稅ニ付キマシテモ、内地ト朝鮮トノ間ニ課稅上ノ連絡ヲ執ルノ必要ガ生ジテ參ツタノデアリマス、次ニ又御承知ノ如ク外地ニ於キマシテハ未ダ相續稅制度ナルモノ、實施ヲ見ルニ至ッテ居リマセヌノデアリマスガ、今回朝鮮ニ於キマシテハ大體内地ノ相續稅法ニ準據致シマシテ、新ニ相續稅ヲ設ケルコトノ運ビト相成リマスルノデ、相續稅ニ付キマシテモ亦内地朝鮮間ノ課稅上ノ連絡ヲ圖ルノ必要ヲ見ルニ至リマシタノデ、之ニ關シマシテモ、二三ノ交渉規定ヲ本法律案中ニ追加致サントスル次第デアリマス

只今申上ゲマシタノハ此大正九年法律第十二號ノ全般ニ互リマシタ趣旨ヲ御説明申上ゲタ次第デアリマスガ、是カラ改正法律案ヲ逐條的ニ簡單ニ御説明申上ゲテ見タイト思ヒマス、先ヅ第三條ノ一デアリマスガ、此條文ハ今回挿入致シマシタノデアリマシテ、朝鮮臺灣又ハ樺太ニ於キマシテ納付致シマシタ第二種ノ所得稅額ヲ内地ノ法人ノ所得稅額又ハ貸付信託ノ利益ニ對シマス第二種ノ所得稅カラ控除スルト云フノデアリマス、朝鮮ニハ此度初メテ第二種ノ所得稅制度ヲ實施スルノデアリマスルガ、御承知ノ通り臺灣及ビ樺太ニハ現在既ニ第二

種所得稅ノ制度ガアルノデアリマス、併シ臺灣又ハ樺太ニ於テ納付致シマシタ第二種所得稅額ヲ、内地ノ所得稅額カラ控除スルト云フコトニ付キマシテハ、現行ノ所得稅法ノ法文上ニ多少明瞭ヲ缺イテ居ル嫌ガアリマスノデ、今回朝鮮ニ於キマシテ第二種ノ所得稅ヲ創設致シマスル機會ニ是ガ控除ニ關シマスル規定ヲ法文上ニ明ニ規定シテ置クノヲ適當ト認メマシテ本條ヲ追加放シマシタ次第デアリマス、即チ朝鮮、臺灣、樺太ニ於テ各地ノ法令ニ依ッテ納付致シマシタ第二種ノ所得稅ニ付キマシテモ、内地ノ第一種ノ所得稅額又ハ貸付信託ノ利益ニ對シマスル所得稅額カラ之ヲ控除スルト云フコトヲ明ニ致シタ次第デアリマス、次ニ第四條第五條第六條デアリマスルガ、此三箇條ハ内地ノ外地間ノ第三種ノ所得稅ノ連絡ヲ圖ルコトヲ目的トスル規定デアリマスルガ、今回新ニ朝鮮ニモ第三種ノ所得稅ガ創設セラレマスルノデ、朝鮮ニ關シマシテモ臺灣及ビ樺太ニアリマスルト同様ニ規定シタ次第デアリマス、即チ内地ニ住所又ハ一年以上ノ居所ヲ有シテ居リマスル外國人ニ對シマシテハ、朝鮮ニ於キマスル其資産、營業又ハ職業カラ生ズル所得ニ付キマシテハ、今回朝鮮ニ於テ第三種ノ所得稅ヲ課ス

ルコトニ相成リマスルガ、其場合ハ寧ロ住所又ハ一年以上ノ居所ノアリマス内地ニ於テ綜合シテ課稅致スコトガ適當ト思ヒマスルノデ、臺灣、樺太ト同様ニ所得稅法ノ第十八條第六號ヲ適用シナイト云フコトニ致シタノデアリマス、次ニ御承知ノ通り内地ノ所得稅ニ於キマシテハ内地ニ住所又ハ一年以上ノ居所ヲ有シマセヌ個人ニ對シマシテハ、内地ニ於キマスル其資産又ハ營業ヨリ生ズル所得ニ對シマシテハ第三種ノ所得稅ヲ課シ、又内地ノ法人カラ受ケマスル利益ノ配當、又ハ利益ノ處分デアリマスル賞與ナドノ所得ニ對シマシテハ第二種ノ乙ノ所得稅ヲ課シテ居ルノデアリマスルガ、朝鮮ニ住所又ハ一年以上ノ居所ヲ有シマスル者ニ對シマシテハ朝鮮ニ於キマシテ是等ノ所得ヲ第三種ノ所得ニ綜合シテ課稅致スコトトナリマスルカラ、内地デハ重複課稅ヲ避ケマスル爲ニ是亦臺灣及ビ樺太ニ對シマスルト同様ニ課稅シナイコトニ致シタノデアリマス、又内地ニ住所又ハ一年以上ノ居所ヲ有シマスル個人ガ、朝鮮ニ於キマシテ支拂ヲ受ケマシタ公債社債又ハ銀行預金等ノ利子ニ對シマシテハ、從來内地ニ於テ第三種ノ所得ニ綜合シテ課稅シテ參ツタノデアリマスルガ、今回朝鮮ニ於キマシテ是等ノ所得

ニ對シテ第二種ノ所得トシテ所謂源泉課稅ヲ爲スコトニナリマスルノデ、之ニ對シマシテハ内地ニ於テ第三種ノ所得トシテ所得稅ヲ課セナイト云フコトニ致シタノデアリマス、是ハ即チ第六條ノ規定デアリマス、次ニ第八條以下三箇條ノ條文ハ、此度朝鮮ニ於キマシテ相續稅ヲ創設セラレ、コト、ナリマスル結果、相續稅ニ付キマシテモ、内地ト朝鮮トノ間ニ先程申上ゲマシタヤウニ課稅上ノ連絡ヲ圖ル所ノ必要ガアリマスルノデ、新ニ追加致サントスル規定デアリマス、尤モ内鮮間ノ相續稅ノ連絡ト云フコトニ付キマシテハ、此法律ヲ離レマシタ全然別個ノ法律ヲ以テ制定致シマスルト云フコトモ、或ハ一ツノ立法ノ仕方考ヘルノデアリマスガ、現在内地ト外地トノ間ノ所得稅ノ連絡ヲ圖ルコトヲ目的ト致シマスル本法ガ既ニ制定セラレテ居リマスルカラ、此法律ノ中ニ相續稅ノ連絡ニ關スル規定ヲモ併セテ規定シタ方實際ノ上ニ於テ便宜デハナイカト考ヘマシテ、本法中ニ追加セントスル次第デアリマス、御承知ノ通り相續稅ハ稅法施行地内ニアリマスル相續財產ニ對シテノミ課稅スルト云フ建前ヲ執ッテ居ルノデアリマス、而シテ相續稅ヲ課シマスル相續財產ハ、被相續人ノ住所ガ稅

ノ所得稅及ビ第三種ノ所得稅ニ付キマシテモ、内地ト朝鮮トノ間ニ課稅上ノ連絡ヲ執ルノ必要ガ生ジテ參ツタノデアリマス、次ニ又御承知ノ如ク外地ニ於キマシテハ未ダ相續稅制度ナルモノ、實施ヲ見ルニ至ッテ居リマセヌノデアリマスガ、今回朝鮮ニ於キマシテハ大體内地ノ相續稅法ニ準據致シマシテ、新ニ相續稅ヲ設ケルコトノ運ビト相成リマスルノデ、相續稅ニ付キマシテモ亦内地朝鮮間ノ課稅上ノ連絡ヲ圖ルノ必要ヲ見ルニ至リマシタノデ、之ニ關シマシテモ、二三ノ交渉規定ヲ本法律案中ニ追加致サントスル次第デアリマス

只今申上ゲマシタノハ此大正九年法律第十二號ノ全般ニ互リマシタ趣旨ヲ御説明申上ゲタ次第デアリマスガ、是カラ改正法律案ヲ逐條的ニ簡單ニ御説明申上ゲテ見タイト思ヒマス、先ヅ第三條ノ一デアリマスガ、此條文ハ今回挿入致シマシタノデアリマシテ、朝鮮臺灣又ハ樺太ニ於キマシテ納付致シマシタ第二種ノ所得稅額ヲ内地ノ法人ノ所得稅額又ハ貸付信託ノ利益ニ對シマス第二種ノ所得稅カラ控除スルト云フノデアリマス、朝鮮ニハ此度初メテ第二種ノ所得稅制度ヲ實施スルノデアリマスルガ、御承知ノ通り臺灣及ビ樺太ニハ現在既ニ第二

種所得稅ノ制度ガアルノデアリマス、併シ臺灣又ハ樺太ニ於テ納付致シマシタ第二種所得稅額ヲ、内地ノ所得稅額カラ控除スルト云フコトニ付キマシテハ、現行ノ所得稅法ノ法文上ニ多少明瞭ヲ缺イテ居ル嫌ガアリマスノデ、今回朝鮮ニ於キマシテ第二種ノ所得稅ヲ創設致シマスル機會ニ是ガ控除ニ關シマスル規定ヲ法文上ニ明ニ規定シテ置クノヲ適當ト認メマシテ本條ヲ追加放シマシタ次第デアリマス、即チ朝鮮、臺灣、樺太ニ於テ各地ノ法令ニ依ッテ納付致シマシタ第二種ノ所得稅ニ付キマシテモ、内地ノ第一種ノ所得稅額又ハ貸付信託ノ利益ニ對シマスル所得稅額カラ之ヲ控除スルト云フコトヲ明ニ致シタ次第デアリマス、次ニ第四條第五條第六條デアリマスルガ、此三箇條ハ内地ノ外地間ノ第三種ノ所得稅ノ連絡ヲ圖ルコトヲ目的トスル規定デアリマスルガ、今回新ニ朝鮮ニモ第三種ノ所得稅ガ創設セラレマスルノデ、朝鮮ニ關シマシテモ臺灣及ビ樺太ニアリマスルト同様ニ規定シタ次第デアリマス、即チ内地ニ住所又ハ一年以上ノ居所ヲ有シテ居リマスル外國人ニ對シマシテハ、朝鮮ニ於キマスル其資産、營業又ハ職業カラ生ズル所得ニ付キマシテハ、今回朝鮮ニ於テ第三種ノ所得稅ヲ課ス

法施行地内ニアリマスルカドウカト云フコトニ依リマシテ、其範圍ニ相違ガアリマシテ、又動産ノ中デモ船舶ノ所在ニ付キマシテハ、船籍ノ所在ニ依ルト云フコトニ定メテ居リマスルノデ、相續開始前一年以内ニ其住所又ハ船籍ヲ税法ノ施行地外ニ移轉致シマシタモノニ付キマシテハ、其住所又ハ船籍ハ依然税法施行地内ニアルモノト見做シマシテ、其相續財産ノ範圍ヲ決メルト云フコトヲ相續税法第二條ニ規定シテ居ルノデアリマス、然ル所朝鮮ニ於キマシテ相續税制度ガ實施セラル、コトニナリマスレバ、朝鮮ニ住所又ハ船籍ヲ移シマシタモノニ付キマシテハ、右ノヤウナ法律上ノ擬制即チ「フィクション」ヲ必要ト致シマセヌノデ、此場合ニ於キマシテハ朝鮮ニ於テノ課税シテ、内地デハ課税セナイト云フコトニ致シタノガ此第八條ノ條文デアリマス、又相續税法ニ於キマシテハ、被相續人ノ住所ガ税法施行地内ニ在リマスル時ハ、施行地外ニ在リマスル財産ニ關聯致シマスル公課、又ハ債務ト云フヤウナモノデアリマシテモ總テ相續税ノ額カラ之ヲ控除致シマシテ課税標準ヲ定メルト云フコトニナッテ居ルノデアリマスルガ、朝鮮ニ於テ相續税ガ創設セラレ、朝鮮ニ在ル相續財産ニ對シマシテ

ハ其財産ニ關聯致ス公課債務ヲ控除シテアル上ニ、朝鮮ニ於テ相續税ヲ課税スルコトニナリマスカラ、更ニ内地ニ於テ之ヲ控除致スト云フ理由ガナイノデアリマス、ノミナラズ之ヲ控除致シマシタナラバ、即チ二重ノ控除ト云フコトニナリマスカラ、此不合理的ヲ除キマスル爲ニ第九條ノ規定ヲ設ケタ次第デアリマス、次ニ御承知ノ如ク内地ニ於キマシテハ、相續税ヲ課シマシタ後ニ五年又ハ七年以内ニ更ニ相續ガ開始致シマスレバ、前ニ相續税ヲ課セラレマシタ課税價格ニ對スル税金ニ相當スル所ノ相續税又ハ其相續税ノ半額ニ相當スル税金ヲ免除スルト云フ規定ガアルノデアリマスルガ、只今申上ゲマシタヤウナ立法ノ精神ハ、朝鮮ニ於テ課税セラレマシタ場合ニ於テモ相當考慮スルノ必要ガアルノデアリマスルカラ、朝鮮ニ於テ相續税ヲ課セラレマシテカラ、五年又ハ七年以内ニ再ビ相續ガ開始致シマシテ、内地ニ於テ相續税ヲ課シマス場合ニ於キマシテハ、恰モ内地ニ於テ相續税ヲ課セラレマシタ場合ト同様デアルト云フヤウナ觀念ノ下ニ、其相續税ノ全部又ハ一部ヲ免除スルコトニ致シタノデアリマス、而シテ其免除額ノ計算方法ナドハ、之ヲ命令ノ規定ニ讓ツタノデアリマスルガ、命令ニ

於キマシテハ大體相續税法ノ第十條ノ趣旨ノヤウナ規定ヲ設ケタイト考ヘテ居ル次第デアリマス、最後ニ此法律ヲ改正ニ伴ヒマシテ、明治四十一年法律第三十七號即チ地方税ノ制限ニ關スル法律中ニ改正ヲ要スルモノヲ生ジマスカラ、其改正ヲ本法ノ附則ノ第四項ニ規定シタ次第デアリマス、以上ハ改正法律案ニ關シマスル大體ノ説明デアリマス、尙ホ御質問ガアリマスレバ御答致スコトニ致シマス

○林政府委員 今回朝鮮ノ税制ヲ改正致シマシテ、新ニ朝鮮ニ第二種ト第三種ノ所得税ヲ創設致シマス共ニ、相續税ヲ創設致スコトニ致シマシタ關係上、只今議題トナッテ居リマス内地ノ各税法ノ改正ヲ御願スルコトニナッタ次第デゴザイマス、隨ヒマシテ直接關係ノアリマス朝鮮ノ新規ノ税法ハ、以上申上ゲマシタ二種デアリマスケレドモ、此際便宜今回朝鮮ニ於キマシテ計畫致シテ居リマス、税制ノ整理ノ綱要ニ付キマシテ御參考ノ爲ニ一應申上ゲテ置キタイト考ヘマス

朝鮮ノ租税制度ニ付キマシテハ、御承知ノ通り從來財政上當面ノ必要ニ應ジマス爲ニ、其時々ノ必要ニ應ジマシテ制定シテ參ツタモノデアリマシテ、之ヲ通覽致シマスルト各税ノ間ニ脈絡ガ整ッテ居ナイ、其組織モ不完全デアアル、ソレカラ又現在ノ經濟狀態ニ鑑ミマシテ、ドウモ實情ニ適合シテ居ナイモノガアルヤウニ考ヘラレル、更ニ負擔ノ公平ヲ得テ居ナイ、竝ニ朝鮮關係ノ税制ガ屈伸力ヲ缺イデ居ッテ、財政上ノ需要ニ應ジ得ナイト云フヤウナ色々ナ缺點ノアルコトヲ認メマシタガ、税制ノ改正ト云フコトハ國及ビ地方ノ財政經濟、竝ニ國民ノ負擔ニ影響ヲ及ス重大ナル事項デアリマスカラ、極メテ慎重ニ考究調査ヲ重ネルノ必要ノアルコトハ勿論デアリマシテ、總督府ニ於キマシテハ、大正十二年ニ朝鮮ノ税制調査委員會ト云フモノヲ設ケマシテ、税制制度ノ改正調査ニ著手致シタノデアリマスケレドモ、不幸ニ致シマシテ翌大正十三年ニ行政整理ノ爲ニ此委員會ハ廢止セラル、ノ已ムナキニ至ッタノデアリマス、併ナガラ以上申上ゲマスヤウナ狀態デアリマシテ、朝鮮ニ於ケル税制改正ノ等閑ニ附シ難キモノガアリマスルノト、其關係スル所ガ浩汎デ且ツ重大デアリマスル爲ニ、越エテ大正十五年ニ再ビ税制調査委員會ヲ設置致シマシテ、將來ニ於ケル朝鮮ノ國稅體系ヲドンナニシタラ宜シイカト云フコトヲ慎重ニ研究致シマシタ結果トシテ、大體ニ於キマシテ内地同様

ニ一般所得稅ヲ租稅ノ中樞トシテ設ケルト云フコトト、第二ニハ地稅、營業稅及ビ資本利子稅等ノ所謂收益稅ノ組織ヲ整備致シ

マシテ所得稅ノ補完稅トスル、第三ニハ消費稅及ビ交通稅ヲ之ニ加ヘマシテ租稅ノ體系ヲ完備セシムルト云フコトヲ租稅制度ノ根本方針ト致シマシテ、之ニ伴ヒマス差當

リノ實行案ヲ當時決定致シタノデアリマス、之ニ基キマシテ、昭和二年ニ朝鮮デ營業稅及ビ資本利子稅ヲ新設致シマシテ、收益稅制度ノ整備ニ努メテ參ツタノデアリマシテ、其後國稅體系ノ完成ニ漸次努力ヲシ

テ來タノデアリマシテ、今回企テマシタ改正モ當時ノ方針ニ從ヒマシテ、其方針ノ實現ヲ期セント致シテ居リマス從來カラノ繼續ノ稅制整理ノ一端デアアルノデゴザイマス、而シテ現在ニ於キマス朝鮮ノ國稅制度ハ直稅ト致シマシテハ、法人所得稅並ニ

所謂收益稅タル地稅、營業稅、資本利子稅、鑛業稅及ビ取引所稅、間接稅ト致シマシテハ酒稅、砂糖消費稅、骨牌稅及ビ關稅、交通稅ト致シマシテハ登録稅、取引稅、印紙稅及ビ朝鮮銀行券發行稅等カラ成ッテ居ル

ノデアリマシテ、内地ノ稅法ト較ベマシテ、個人所得稅、相續稅、清涼飲料稅及ビ織物消費稅ヲ缺イテ居ルノダケアリマスガ、

昭和九年度ニ於キマシテ創設致シマス新稅ハ、一般所得稅、第二ハ相續稅、第三ハ清涼飲料稅デアリマスカラ、此三ツノモノヲ創設致シマシタ曉ニ於キマシテハ、内地ノ

稅法ト比較致シマシテ織物消費稅ヲ朝鮮ニ施行シナイ點ダケガ稅ノ種類ニ於テ相違スルコト、相成ル次第デゴザイマス、今回改正致シマス稅制整理計畫ノ骨子ヲ申上ゲマスレバ、一般所得稅ニ付キマシテハ先程申

上ゲマス通りニ、朝鮮ノ租稅體系ノ中樞トシテ最モ理想的ノモノデアルト云フコトニ大體ノ方針ヲ決メテ居ルノデゴザイマシテ、現在ニ於キマシテハ、先程モ御説明ノアリマシタガ如ク、所得稅ニ付キマシテハ、法人ニダケ課稅致シテ居ルニ過ギナイノデアリマシテ、甚ダ不完全デアリマスカラ、

今回之ヲ整備致シマシテ、個人ノ所得ニモ課稅スルコト、致シタ次第デゴザイマス、此今回ノ改正ノ内容ニ付キマシテハ、大體ニ於キマシテ内地ノ現行法ニ準據スル計畫デアリマスガ、唯朝鮮ニ於キマス特殊ノ事情ニ鑑ミマシテ、稅率ノ點ニ於キマシテ

急激ナル負擔ノ増加ヲ避ケマスルガ爲ニ、大體現在ノ計畫ト致シマシテハ、内地現行法ノ半額程度ニ差當リ止メタイト考ヘテ居ル次第デゴザイマス、尙ホ昭和九年度ニ於

キマシテハ、施行時期等ノ關係モアリマスノデ、更ニ其半額程度ト致シタイト積リデ居リマス、隨ヒマシテ昭和九年度ニ於キマシテハ、内地現行稅率ノ四分ノ一程度ヲ課稅

シ、昭和十年度以降ニ於キマシテ、内地稅率ノ半額程度ヲ課稅致シタイト云フ考デ居ルノデゴザイマス

ソレカラ第二ニハ個人所得ノ免稅點及ビ扶養家族ノ控除額等ニ付キマシテハ朝鮮ノ實情ニ照シマシテ、相當内地ノ規定ニ較ベマシテ低下致シタイト云フ考デアリマシテ、

其他必要ナル特殊ノ規定ヲ設ケル積リデアリマス、然ルニ現在朝鮮ニ於キマシテ、初等教育費ヲ支辨致シテ居リマスル府ノ第一部及ビ第二部ノ特別經濟及ビ府以外ノ地方

ニ於キマス學校費、並ニ學校組合ノ賦課金ガ主トシテ個人ノ所得ヲ標準ト致シマシテ賦課サレテ居リマス關係上、國稅ノ一般所得稅ヲ創設致シマス場合ニ於キマシテハ、

負擔ノ過重ヲ來ス虞ガアリマスカラ、現在ノ賦課金徵收額ノ約半額ニ相當致シマス金額ヲ、教育費負擔輕減ノ爲ニ、是等ノ團體ニ對シマシテ交付スルコト、致シテ居ルノ

デゴザイマス、ソレカラ現在課稅致シテ居リマス朝鮮ノ地稅ハ、從來朝鮮ニ於キマス國稅ノ大宗デアッタノデアリマスガ、今回

一般所得稅ヲ創設致シマシテ租稅體系ノ中樞ト致シマス結果ハ、地稅ハ其補完稅デア

ル地位ニ引直サレル譯デアリマス、此點ニ於キマシテ地稅ノ稅率ヲ現在ノ儘ト致シマス時ニハ、土地所有者ハ從來ノ國稅ノ中樞

トシテノ地稅ノ負擔ノ上ニ、更ニ一般所得稅ヲ課セラレルコト、ナリマシテ、其負擔ハ著シク増加致スコト、ナリマスノデ、是

等ノ點ヲ考慮致シマシテ、其負擔ノ過重ヲ避ケル爲ニ、現行ノ地稅率ニ若干ノ引下ヲ行フコトニ致シテ居ル次第デゴザイマス、

尙ホ地稅ニ付キマシテハ朝鮮デ未ダ實行致シテ居リマセヌ所ノ小額地稅ノ免除ヲモ、併セテ行フコトニ計畫シテ居ル次第デゴザイマス

次ニ相續稅ノコトデアリマスガ、朝鮮ニ於キマシテモ内地同様ニ相續ノ開始ニ因リマシテ財產ノ取得ヲ爲シマス相續人ニ對シマシテ、其擔稅力ニ應ズル課稅ヲ致シマシ

テ、收益稅ト共ニ一般所得稅ノ補完稅ト致シマスコトガ、租稅負擔ノ公正ヲ期シマス必要上洵ニ適當ノ措置ト考ヘマシテ、今回

相續稅ヲ創設スルコト、致シタ次第デゴザイマスガ、其内容ハ大體内地現行法ニ準據致シマス積リデ居リマスケレドモ、朝鮮人

ノ親族及ビ相續ニ關シマシテハ、原則トシ

テ民法ニ依ラズ慣習ニ據ルコト、ナッテ居
リマスノデ、其慣習ヲ考慮致シマシテ税率
ノ區分等ニ付キマシテモ、特別ノ規定ヲ設
ケタイト考ヘテ居ルノデゴザイマス

次ニ清涼飲料税ノ創設デアリマスガ、朝
鮮ニ於キマシテハ未ダ清涼飲料ニ對シマシ
テ課税ヲ致シテ居ラナイノデアリマスケレ
ドモ、清涼飲料水ハ酒類ヤ砂糖ナド、共ニ
嗜好品ト致シマシテ一般ニ消費セラレテ居
リマス狀況ニ鑑ミマシテ、内地同様ニ本税
ヲ創設致シマシテ、消費税體系ノ整備ヲ圖
ルコト、致シタノデゴザイマス、其内容ハ
大體ニ於キマシテ内地現行法ニ準據スル譯
デアリマスガ、朝鮮ノ實情ニ照シマシテ若
干特殊ノ考慮ヲ加ヘタイト積リテ居ルノデゴ
ザイマス、尙ホ税制ノ整理トハ直接關係ハ
ゴザイマセヌケレドモ、此際併セテ朝鮮ニ
於キマシテハ酒税ノ税率引上ヲ實行スル計
畫ニ達シテ居ルノデゴザイマス、ト申シマ
スノハ、酒ノ中デ麥酒ハ近ク朝鮮内地製造
ヲ見ルコト、ナッテ居リマス結果、從來内地
カラ移入セラレテ居リマシタモノガ、大部
分鮮内ノ產品デ供給セラル、コトニナルデ
アラウト考ヘルノデアリマス、從ヒマシテ
從來移入麥酒ニ課税シテ居リマシタ移入税
ノ收入ハ大體ニ於テ非常ニ減少ヲ來ス結果

ト相成ラウカト考ヘルノデアリマシテ、麥
酒ノ國稅負擔額ハ移入稅額ダケハ輕クナル
結果トナルト考ヘマスノデ、是ガ對策ヲ講
ズル必要ガアリマスコト、又一ツニハ朝
鮮デ出來マス朝鮮側ノ嗜好品デアリマス所
ノ朝鮮藥酒ハ、最近品質並ニ消費ノ狀況ガ
段々清酒ニ近似シテ參リマシタ情勢ニ鑑ミ
マシテ、負擔ノ權衡上税率ノ引上ヲ圖ル必
要ヲ認メテ居リマシタカラ、旁、是等ノ特
殊ノ事情カラ此際酒税一般ノ税率ノ引上ヲ
行フコトニ致シマス同時ニ、右申シマシ
タ麥酒及ビ朝鮮藥酒ニ付キマシテハ、特ニ
是等ノ點ヲ考慮ニ加ヘマシテ、税率ノ引
上ニ相當ノ考慮ヲ拂テ居ル次第デゴザイ
マス、以上ガ今回朝鮮ニ於キマシテ、計畫
致シテ居リマス税制改正ノ大要デゴザイマ
ス

○竹内委員長 今ノ御説明ハ、總テ國稅デ
スネ、地方税トノ關係ハドウナルノデスカ
○林政府委員 只今申上ゲマシタノハ、國
稅ノ整理ダケデゴザイマス、地方税ノ整理ニ
付キマシテモ、先程申上ゲマシタ朝鮮ニ於
キマスル稅制整理委員會ニ於キマシテ、相
當整理ノ計畫ヲ樹テマシテ、爾後機會アル
毎ニ實行シテ參ッタノデゴザイマスガ、今回
ノ國稅ノ改正ニ伴ヒマシテ、更ニ之ニ追從

致シマシテ、地方税ニモ相當ノ改正ヲ加ヘ
タイ積リニ致シテ居リマス
○竹内委員長 此結果朝鮮全體トシテ國稅
デドノ位殖エル譯ニナリマスカ
○林政府委員 御手許ニ御參考ノ爲ニ差出
シテ置キマシタ朝鮮稅制整理計畫綱要ノ十
頁ノ所ニ、稅制整理ノ結果歲入ニ及ボス影
響ト云フモノヲ認メテ置キマシタガ、平年
度ニ於キマシテ、昭和九年度ノ稅制改正ニ
關シマスル稅ノ收入ノ總額ガ二百五十六萬
三千餘圓デゴザイマシテ、是ガ平年度ニナ
リマスト、五百五十七萬八千餘圓デゴザイ
マス

○竹内委員長 ソレデ是ガ租稅全體ニ對ス
ル「パーセンテージ」、殖エル割合ハドウ位
ナンデスカ
○林政府委員 昭和九年度ニ於キマシテハ
約五分程度デゴザイマス
○小川委員 ドウオ遣リニナリマスカ知リ
マセヌガ、質問ハ今日繼續シテオ遣リニナ
リマスカ
○竹内委員長 一般ノ他ノ案ニ付テモ政府
デ色々ノ説明ヲ聽イテ吳レヌカト云フコト
ヲ言ッテ來テ居ルノモアリマスカラ、皆聽イ
テシマヒマスカ
○小川委員 ミンナヲ聽クコトニシテ戴キ

タイノデスガ、ソレト今ノ案ニ付テモ地方
稅ニ關スル方ノ説明モ聽キマシタケレド
モ、餘リ簡單デアリマシタノデ、内務省ノ
方デスカ、モウ少シ御説明ヲ伺ッテ置イタ
方ガ宜イト思ヒマス、尙ホ材料ヲ一ツ御出
シ願ヒタイト思フ、私其點ニ付テ一寸御請
求シテ置キタイ、今林政府委員カラ此改正
案ニ付テノ大體ノ骨組ハ御説明ニナリマン
タケレドモ、モウ少シ立入ッテ筋書ヲ各稅
ニ付テ書面デモ一應御認メヲ願ッテ、御示シ
下サレバ結構ダト思ヒマス、例ヘバ今ノ御
説明ノ中ニモ一般所得稅法ハ、第二種、第
三種ノ所得稅ガ出來ルト云フコトハ能ク分
リマシタ、大體稅率ハ内地ノ現行法ノ半分
位ダト云フヤウニ言ハレテ居リマスガ、サ
ウ云フ位ノ稅率ガ決ッテ居ルナラバ、第二
種所得稅ノ内容ハ日本内地ト同ジ種類ニ
ナッテ居ルカ、其稅率モ全ク半分カト云フコ
トヲモウ少シ明確ニシタイトデアリマス、

第三種所得稅モ、是モ御説明デハ内地現行
法ノ半分ト云フノデスガ、第三種ハ御承知
ノ通り累進稅デアリマスカラ、累進稅ノ半
額ト云ッテ所ガ譯ノ分ラヌモノニナルノデ
ス、第三種所得稅ノ累進稅ハドウ云フ風ニ
行フモノデ半額ニナルノカ、其見當ガ一寸
付キ兼ネルト思ヒマスカラ、差支ノナイ程度

ニ於テ其稅率、例ヘバ稅率ニ於キマシテモ
 第三種所得稅ガドウ云フ組立ニナルカト云
 フコトヲ御示シニナツタナラバドウカト思
 ヒマス、免稅ニ付キマシテモ家族ノ免稅ト
 カ色々ナ免稅ガアリマスガ、ソレノ示サレ
 ル程度ニ於テ御示シ願フタ宜イト思ヒマ
 ス、相續稅ハ御承知ノ通り日本デハ遺產相
 續、家督相續トカナツテ居リマスガ、サウ云
 フ建前デ行クカ、是亦累進稅ニナツテ居ル
 デ、大綱ヲモウ少シ書イテ御示シ願ヘタラ
 此審議ニ大變便宜ダト考ヘマス、尙ホ大藏
 省ノ方ニ御願ヲシタイノデスガ、稅制整理
 ノ結果内地ノ租稅收入ニ及ボス影響ハドウ
 デアルカ、今ノ御説明ノ中ニモ、必ズ影響
 ガアル譯デスカラ、其歲入ノ額ト、其稅ノ
 根本ニナル所得稅ニ付テ云ヘバ其所得額、
 第二種所得ト云フヤウナモノモ、例ヘバ公
 債トカ、社債トカ云フ項目ニ互フデ、モウ少
 シ分ケテ數字ガ出テ來ルノデハナイカト思
 ヒマス、是ハ日本内地ノ財政ニ響クモノデ
 アリマスカラ當然明ニシナケレバナラヌ
 ト思ヒマス、サウ云フ材料ヲ色々整ヘラレ
 テ、質問ハ其後ニ細カニ進メテ行ツタ方ガ
 便利デヤナイカト思ヒマス

宜ダト思ヒマス、先ヅ先刻御説明申上ゲマ
 シタ附則ノコトデアリマスガ、非常ニ簡單
 ニ御説明申上ゲマシタノデ御分リニク、甚
 ダ恐縮ニ存ジマス、附則ノ第一項乃至第三
 項ハ改正法ノ施行時期ト、改正法ノ適用區
 分トヲ規定シタノデアリマシテ、是ハ別ニ
 御説明申上ゲル迄モナイト思ヒマス、第四
 項ノ規定ニ付キマシテ一應御説明申上ゲマ
 ス、第四項ハ此法律ノ改正ニ伴ヒマシテ、明
 治四十一年法律第三十七號中ニ改正ヲ要ス
 ルモノガアリマス、此法律ハ御承知ノ通り地
 方稅制限ニ關スル法律デアリマシテ、其第三
 條ノ第四項ニハ「所得稅附加課ノ賦課ニ付テ
 ハ所得稅法第二十一條第二項ノ規定ニ依ル
 第二種ノ所得稅額ノ控除ヲ爲ササルモノヲ
 以テ第一種ノ所得稅額ト見做ス」ト云フ規
 定ガアルノデアリマス、前ニモ申上ゲマシ
 タヤウニ今回法人ガ朝鮮ニ於テ納付致シマ
 シタ第二種ノ所得稅ニ付キマシテモ、第一
 種ノ所得稅額カラ控除スルコトニナリマス
 ノデ、右ノ法文中ニ「大正九年法律第十二
 號第三條ノ第二項」ト云フ字ヲ挿入致シ
 タノデアリマス、尙ホ從來ノ法文中ニハ「所
 得稅法第二十一條第二項」トノミアリマシ
 テ「所得稅法第二十一條第四項」即チ法人ノ
 清算所得ニ對スル所得稅額カラ第二種ノ所

得稅額ヲ控除スルト云フ規定ガ缺ケテ居
 タノデアリマス、其關係上此機會ニ缺ケテ
 居リマスノヲ補足シタ次第デアリマス
 尙ホ内地ノ稅收ニドシナ影響ヲ及ボスカ
 ト云フ點ニ付キマシテハ、調査ヲ致シテ居リ
 マス、大體所得稅額ニ於キマシテ十七萬圓
 位減收ニナルト思ヒマス、其内譯ト致シマ
 シテハ、第一種ノ所得稅ニ於テ約六萬三千
 圓、第二種ノ所得稅ニ於キマシテ約十萬五
 千圓、是ガ主ナモノデアリマス、第三種ノ所
 得稅ハ殆ド問題ニナリマセヌガ、約二千圓
 バカリ減ルコトニナリマス、尙ホ相續稅ノ
 關係ハ、是ハ殆ド數字ニ上ラナイ程ノ問題
 デアリマス、相續稅ノ建前カラ行キマシテ
 モ、大シタ影響ガナイト云フコトハ御諒察
 出來ルト思ヒマス

スガ、案ガ決ラヌ前ニ制令案全文ノ御提示ヲ
 願フコトハドウカト思ヒマスガ、其骨子ヲ
 成ベク詳細ニ提示シテ戴キタイ、サウシテ
 此新稅及ビ改正サレル稅ニ付テノ稅率及ビ
 内地臺灣樺太トノ比較、殊ニ朝鮮ハ色々御
 説明ニナツタヨウニ學校費、學校組合費ト云
 フヤウナ特種ノ負擔ガアツテ、内地トハ大變
 事情ヲ異ニシテ居ルノデアリマスカラ、一
 般ノ負擔ノ上ニ今度ノ新稅及ビ稅制ノ改正
 ガドウ云フ風ナ影響ヲ及ボスカト云フコト
 ノ、比較對照表ノ極メテ詳細ノモノヲ御提出
 願ヒタイト思ヒマス、尙ホ内地ニ及ボス影
 響ハ十七萬圓バカリト云フ御説明デアリマ
 スガ、是モ尙ホ詳細ナ表ヲ御提出下サルコ
 トヲ御願シマス、材料ハ成ルベク詳細ニ數
 字的ニモ一目瞭然タルモノヲ御願シマス、
 ソレヲ見マシテ更ニ質問ヲ進メタ方ガ便宜
 ダト思ヒマス

○**牧山委員**

○**小川委員**

此増稅案ハ極メテ朝鮮統治上
 重大ナ影響ヲ及ボスモノデアリマシテ、文
 化ノ程度ヲ異ニシテ居ル朝鮮ノ同胞ハ、善
 政ダト云ヘバ、何デモ負擔ノ輕クナルコト
 ダト考ヘテ居ルモノモアリマシテ、此増稅
 計畫ノ二千萬民衆ニ及ボス影響ハ極メテ重
 大ト思ヒマスカラ、慎重審議ヲ致シタイト
 思ヒマス、ソレニ付テハ是ハ何レ制令ヲ發
 布サル、コト、思ヒマス、ソコデ政府ノ方
 デハ既ニ制令案ガ出來テ居ルコト、思ヒマ
 只今私ガ材料ニ關係シテ申上
 ゲタコトニ付テ主計局長カラ簡單ナ御答辯
 ガアリマシタガ、殊ニ内地ノ所得稅ノ影響
 十七萬圓ト云フ總額ノ話ハ分リマシタケレ
 ドモ、先刻申上ゲマシタヤウニ、第二種所
 得稅ガ十萬圓餘減ツテ來ルト云フガ、其第
 二種所得稅ノ社債トカ公債トカ色々種類ニ
 依ツテドウ云フ數字ガ出テ來ルモノカ、稅ノ

○**中島政府委員**

只今小川サンノ御尋ニ對
 シマシテ一應簡單ニ御答致シテ置ク方ガ便

収入ノ影響ガ分レバ利子額ガ自然ニ分ッテ

來レアリマセウシ、ソレカラソレノ額面

ガ又自然ニ出テ來ルト思ヒマス、能ク今日

迄モ日本内地ノ人ガ合法的脱税ト云ヒマス

カ、サウ云フ考デ内地デ拂ハナイデ朝鮮ニ

持ッテ行ッテ色々ナ方法ヲ講ジテ居ルト云フ

コトガ専ラ評セラレテ居ッタノデアリマス

カラ、サウ云フ數字ガ出ル以上ハ大藏省ニ

於カレテモ、約ソノ擱ミ所ガアルト見ラレ

ルノデスカラ、其擱ミ所ヲ一ツ明カニシテ

見タイト思ヒマス、デアリマスカラソレハ

今御即答ハ望ミマセヌガ、何カ材料ヲ御調

ベ下サイマシテ、寧ロ表ニデモ御示シ下スッ

タ方ガ却テ便宜ダト思ヒマス

○中島政府委員 承知致シマシタ

○竹内委員長 林政府委員ノ御説明ニ依ル

ト、地方税ノ方ハ追テ更ニオ遣リニナルト

云フ御話デスガ、此國税ノ結果デ例ヘバ所

得税ノ附加税ト云フモノガ矢張り一遍ニ地

方税トシテ今度制定サレルノデスカ

○林政府委員 從來大體ノ方針ヲ決メテ居

リマスノハ國税ト致シマシテ一般所得税ガ

起サレマシタ際ニハ、適當ナ時期ニ所得税

附加税ヲ地方税ト認メ、其財源ヲ以テ現在

アリマス地方税ノ中デ戸別税等ノ從來カラ

問題ニナッテ居リマシタ税ヲ廢止スル計畫

ニ致シテ居ルノデアリマスカラ之ヲ實施

スルコトニ決ッテ居リマセヌ、唯國税トシテ

サウ云フ一般所得税ガ起ッタ曉ニ於テ適當

ナ時期ニ於テサウ云フ改正ヲ行フト云フ積

リデ居リマス、是ト共ニ直チニ實行スルト

云フ所迄ハ參ッテ居リマセヌ

○竹内委員長 何カ材料ニ付テ他ニ御請求

ハアリマセヌカ

○小川委員 一寸林政府委員ニ御相談シマ

スガ、只今牧山君カラモ話ガアリマシタガ、

巨細ナ條文マデハ御出シニナルコトハ難シ

イデセウガ、大體ノ筋書ハ、今度ノ案ノ筋

書ハ御出シニナルコトハ出來ルノデスネ

○林政府委員 大體ノ私共ノ考ヘテ居リマ

ス腹案ダケ有ッテ居ルノデゴザイマスガ、マ

ダ政府内部ニ於テモ審議ヲ經ナケレバナラ

ヌノデゴザイマスカラ、確定案ト云フ迄ニ

ハ申上ゲ兼マス、腹案ダケハ御参考ノ爲ニ

出來ルダケノモノヲ差出シマス

○小川委員 ソレヲ一ツ早ク御出シ願ッテ

置キマス

○林政府委員 承知致シマシタ

○小川委員 今日ハ政府ノ方ノ御説明ヲ伺

フコトノ程度ニシテ戴イタラドウカト思ヒ

マス

○竹内委員長 無論其積リデス

○小川委員 隨ッテ今ノ案以外ニ、他ノ案モ

簡單デアリマスカラ一應矢張説明ヲシテ戴

イタラ如何デゴザイマス

○竹内委員長 此案ニ付テノ説明ハモウ是

デ宜シイデスカ——然ラバ次ニ移リマシテ、

昭和九年度一般會計歳出ノ財源ニ充ツル爲

公債追加發行ニ關スル法律案、絲價安定融

資擔保生絲買收法中改正法律案、日本銀行

特別融通及損失補償法中改正法律案、此三

案ニ付テノ政府ノ説明ヲ求メマス

○上塚政府委員 只今議題トナリマシタ昭

和九年度一般會計歳出ノ財源ニ充ツル爲公

債追加發行ニ關スル法律案提出ノ理由ヲ説

明致シマス、昭和九年度歳入歳出總豫算ニ

伴フ一般會計歳入不足ノ補填ニ付キマシテ

ハ、之ニ關スル法律案ヲ本期議會ニ提出致

シテアリマスガ、今回提出致シマシタ同年

度歳入歳出總豫算追加第一號ニ計上セル經

費ノ財源ニ付キマシテモ、亦今日ノ場合其

大部分ヲ公債ニ依ルノ外アリマセヌノデ、

本法律案ヲ提出シタ次第デアリマス、尙ホ

本法律案ハ前述ノ如ク總豫算ニ伴フ歳入補

填公債法案ガ既ニ衆議院ヲ通過致シマシ

テ、目下貴族院ニ於テ御審議中ナルニ鑑ミ、

別ノ法律案ト致シタ次第デアリマス、何卒

御審議ノ上御協賛ヲ與ヘラレンコトヲ希望

致シマス

次ニ絲價安定融資擔保生絲買收法中改正

法律案提出ノ理由ヲ説明致シマス、絲價安

定融資擔保生絲買收法ニ依リ、買上ゲタル生

絲ノ賣拂ニ依リ收入シタル金額ハ、現行法ニ

於キマシテハ、之ヲ國債元金償還資金ニ充

ツル爲メ、國債整理基金特別會計ニ繰入ル

ルコト、ナッテ居リマス、然ルニ先般來屢

申上ゲマシタ通り、一般會計歳入ノ狀況ハ

當分ノ内多額ノ財源不足ヲ免レナイノデア

リマシテ、是ガ補填ニ關シマシテハ、新ニ

公債ヲ發行スルノ餘儀ナイ状態ニ在ルノデ

アリマス、又別途提出致シマシタ昭和九年

度歳入歳出總豫算追加第一號ニ計上セラレ

マシタル、農村救済ニ關スル經費ノ財源ヲ

必要トスル事情ニモ鑑ミマシテ、當分ノ内、

右國債元金償還資金繰入ヲ停止スルヲ適當

ト認メルノデアリマス、尙ホ輒近一般市場

金利低下ノ趨勢顯著ニシテ、客年九月以降

發行致シマシタル新規公債ノ利率ハ、總テ

四分ニ引下ゲラレタルニ徴シマシテ、右法

律ノ規定ニ依リ交付スル國債證券ノ利率モ

亦之ヲ引下ゲテ、同時期ニ發行セラル、他

ノ國債ト同様ノ利率ト爲スノ必要アリト考

ヘマスルノデ、本法律案ヲ提出シタ次第デ

アリマス、何卒御審議ノ上御協賛ヲ與ヘラ

レンコトヲ希望致シマス

次ニ日本銀行特別融通及損失補償法中改正法律案提出ノ理由ヲ説明致シマス、近時低金利ノ趨勢顯著ナルモノガアリマスカラ、此趨勢ニ鑑ミ、日本銀行特別融通及損失補償法ニ依リ、交付スル國債證券ノ利率モ亦之ヲ引下ゲテ、同時期ニ發行セラル、他ノ國債ト同様ノ利率ト爲スノ必要ガアルト認メラレマスルノデ、本法律案ヲ提出シ

タ次第デアリマス、何卒御審議ノ上御協賛ヲ與ヘラレンコトヲ希望致シマス

○小笠原委員

一寸此日本銀行特融ニ付キ

マシテ、第一ハ日本銀行特融貸出後ノ貸出ニ付キ擔保、無擔保ニ分チテ、六月、十二月ノ毎半期末ノ取調、第二ハ現在ノ貸出殘高ニ付テ、擔保、無擔保、ソレカラ回收見込額、回收不能見込額ヲ分ケテ御取調ガ願ヒタイ、ソレカラ第三ハ特融法ニ基イテ、既ニ補償サレタル金額ノ調、其補償ヲサレタ先ノ銀行、或ハ若シ分レバ、更ニ取引先マデ、ソレカラ補償ヲ實行サレタ期日等モ序ニ承リタイ、ソレカラ是ハ少シ御無理カモ知レマセヌガ、若シ出來レバ第四、現在ノ特融ノ貸出先調、金額、擔保無擔保、回收見込額、回收不能見込額、詰リ現在特融ノ銀行別個々ニ互ツタモノデス、ソレノ擔保、無擔

保、ソレカラ回收可能、回收不能、斯ウ云ツ

タ調是ハ銀行ノ關係ガアリマシテ御無理デアレバ強ヒテトハ申シマセヌガ、ソレヲ御差支ナケレバ願ヒタイ

○上塚政府委員

今御請求ノ書類ハ、銀行

ノ營業ニ互ルヤウナコトモアリマスカラ或ハ發表ノ出來ナイ部分モアルト思ヒマス、出來ルダケ事務當局ニ話シマシテ提出スルコトニ致シマス

○小川委員

「マーケット・オペレーション」

ニ依ッテ公債證券ノ日本銀行カラ外部ニ賣ツタ額ニ付キマシテ——銀行或ハ大藏省預金部ナドニ賣ツタ額、今マデノ材料ハ八年ノ終リ位マデ出テ居リマスガ、九年ニナツテモウ二箇月モ過ギテ居リマスノデ、其間ニ大分日本銀行デ賣ッテ居ルノデハナイカト思ヒマス、ソレヲ公債證券或ハ其他ノ政府證券ニ分ケテ極ク最近ノモノマデ御示シテ願ヒタイ、願ヘルナラバ一月ガ幾ラ、二月ガ幾ラト云フヤウニ月別ニシテ……

○上塚政府委員

承知致シマシタ

○竹内委員長

外ニ材料ノ御請求ハアリマ

セヌカ——相當御請求ノ材料ハ集マルコトト思ヒマスノデ、明後日ノ午前十一時ニ開クコトニ致シマス、本日ハ是ニテ散會
午後零時四分散會